

橋建協

(社) 日本橋梁建設協会
図 書 資 料

NO.2 虹橋— 3

3

社団法人 日本橋梁建設協会

東京都中央区銀座西二丁目一番地

会長年頭の挨拶

会長 田 口 連 三

新年明ましておめでとうございます。

昭和42年を迎えるに当り会員各員益々御発展の一途をたどっておられることを心から御慶びを申し上げます。

かえり見ますと昨年は世界中が政治的、経済的に激動を続けて居り日本も又同じでございましたが昨年は一昨年の不況の後をうけ、公共投資の雲間からもれた光が、だんだん建設業界に、それから橋梁業界をも照す様になってまいりました。

本年は、更に日本全体がもうすこし明るくなり、設備投資が増える年のはずであります、内外には大きな問題もあり、日本の遠い将来を考えて見ますと非常に多事多難なものがあると思われま。

扱て、本業界について見ますと、昨年は「国土開発幹線自動車道建設法の成立を見て、全国7,600 軒に及ぶ幹線自動車道を向う20年で完成する基本立法措置がなされ、又、本年度より、はじまる新道路整備5ヶ年計画では政府に於ては7兆3000億円を見込んでおり、その内に橋梁関係が3600億円位いあると聞いております。又関門並本州四国の連絡橋の計画も着々具体化しつつありますし、一方国鉄に於ても第3次5ヶ年計画が本年よりスタートし、万国博覧会関係の道路整備、その他横断歩道橋の新設等を含めた都市並びに地方の道路の整備計画等々、当分の間は橋梁の発注量はあゝと思われま。

昭和35年の約69,000 t 位の生産高に位べると昨41年は約260,000万 t の生産高となっており、昭和42年以後は300,000 t 位の生産高を示すこととなると思われま。

本年はこの様に非常によい年ではあります、反面資本の自由化等の問題も大きく取り上げられて来ましたので、日本産業界全体並びに、当業界も大きな転機を迎える年となり、又試練の年でもありますので、皆様に於かれても、この期に一致協力して、業界の発展のために御尽力下されんことを御願して、新年の挨拶と致します。
(テープ録音、文責在編集委員会)

目 次

- 1……………会長年頭の挨拶
- 2……………理事会議事録
- 3……………市場調査委員会
- 4……………労務委員会
- 5……………技術委員会／運営委員会
／資材委員会／輸送委員会
- 6……………本州四国連絡架橋調査委員会
- 7……………吊橋の国際シンポジウム
“見学旅行から”
- 9……………事務局だより
- 10……………行事報告
- 11～12………委員会名簿
- 13……………役員名簿
- 13～15………会員名簿
- 16……………後 記

橋 建 協 No. 3 1967. 3 (非売品)

編集兼発行人・額 額 八 郎

発 行 所・社団法人
日本橋梁建設協会

東京都中央区銀座西2～1

鉄骨橋梁会館 2階

TEL (561) 5225・5452

理事 会 議 事 録

第 10 回

日 時 昭和41年12月15日 正午より
場 所 鉄骨橋梁会館・3階会議室
出席者 石川 島 播 磨 (石田 俊 夫)
川 田 工 業 (鈴木 久 門)
汽 車 製 造 (大谷 寿 宏)
駒 井 鉄 工 (小 椋 博 之)
高 田 機 工 (木崎 輝雄, 三浦 文次郎)
日 本 橋 梁 (久 末 達 雄)
松 尾 橋 梁 (高 田 稔)
三 菱 重 工 (森 敏 夫)
宮 地 鉄 工 (富 士 栄 一)
横 河 橋 梁 (加藤 染雄, 御園 一雄)
事 務 局 (額 額 八 郎)

審議事項

1. 資本取引の自由化について

去る12月5日建設省計画局建設振興課より呼び出しを受け石田運営委員長、御園運営委員及び額額事務局長出頭、その席上、日本が直面している資本取引の自由化について橋梁業界の意見を纏めて早急に回答をして欲しいとの要望があった。よって種々協議の結果国の方針として自由化が進められるならば之に従わざるを得ないが中小企業を多数擁する業界としては

- (1) 急激な外国資本の進出により企業に深刻な影響を及ぼすおそれなしとしない
- (2) 過当競争の激化により国内の秩序がみだされる等の見地から時期尚早であるとし政府の妥当な行政的措置により業界に極端な影響を与えない様序々に自由化を進めて貰う様要望することとした

2. 横断歩道橋についての関係官庁に陳情の件

現在会員各位より横断歩道橋の発注価格が極めて安く又工期についても無理な点が多いので協会として陳情をして欲しいとの要望が出ているので目下会員会社の実績を調査の上早急に関係官庁に陳情を行う様計画中である。

3. 新年互礼会の件

恒例により42年1月6日午後4時～6時、新年の名刺交換会を行うことに決定。

追って事務局より案内状を出すこととする。

以 上

第 11 回

日 時 昭和42年1月17日 午前11時より
場 所 鉄骨橋梁会館・3階会議室
出席者 石川 島 播 磨 (石田 俊 夫)
川 田 工 業 (鈴木 久 門)
汽 車 製 造 (大谷 寿 宏)
駒 井 鉄 工 (小 椋 博 之)
高 田 機 工 (生 方 一 男)
日 本 橋 梁 (加 藤 茂 一)
松 尾 橋 梁 (鳴 尾 正 太 郎)
三 菱 重 工 (服 部 元)
宮 地 鉄 工 (富 士 栄 一)
横 河 橋 梁 (山 川 俊 哉)
事 務 局 (額 額 八 郎)

審議事項

1. 横断歩道橋の陳情について

陳情書を別添の通り作成し承認を得た。1月18日会長、副会長、事務局長が道路局長並技監に陳情することとした。

尚、陳情書の写しを関係官庁に送付し、依頼すると共に主要官庁にはそれぞれ手分けして直接出頭し陳情することとする。

2. 土木学会に対する特別賛助金について

本件については鉄骨橋梁協会関西支部長より、要請があったので、42年度予算に組入れることとする。

以 上



各 委 員 会 の 動 き

市場調査委員会

☆11月12日 幹事会開催

協会会議室 13時30分より

鋼道路原価計算表昭和41年度版の編集方針検討

☆11月17日～19日

「鋼道路橋原価計算表」原案作成作業

☆11月29日 幹事会開催

協会会議室 11時より

「鋼道路橋原価計算表」原案の検討

☆12月12日

東北六県に対し原価計算について説明会を開催
於 都道府県会館 10時より

☆1月10日 幹事会開催 協会会議室 11時より

横断歩道橋の陳情書について

☆1月19日～20日

横断歩道橋の標準設計について見積の作成作業

☆1月23日 幹事会開催

於 協会会議室 14時より

各官庁より会員に対し種々問い合わせがあるので
検討の結果委員会として次の様な結論を出した

1. 熔接棒の単価…………… 135円/kg

手動の場合 内訳

軟 鋼 90円～140円 平均115円
高張力 120円～150円 平均135円

自動の場合

ワイヤ 120円～250円 平均185円
(心線)
フラックス 120円～140円 平均130円

熔接棒使用の比率

手 動 70%

自 動 30%

従つて手動の場合の平均単価
125円×70%=88円
自動の場合の平均単価
158円×30%=47円

尚自動熔接率は増加しつつあるので今後単価の
決定には、その点を考慮されたい

2. 鋳鋼製品の単価

名 称	規格	単位	価 格	摘 要
鉄 鋼 製 品	S C 46	屯	250,000円	ローラー支承
	"	"	220,000	亀の子支承
鍛 鋼 製 品	S F 45	"	260,000	ローラーなど
鋳 鉄 製 品	F C 15	"	120,000	標 準 杓
	F C 25	"	140,000	"
	F C 15	"	160,000	排 水 管

鋳鋼製品の吊橋用のサドル並に吊橋用の附属金
具は30万円～50万円程度である

3. 高力ボルト、仕上ボルトの単価

種 別	規 格	寸 法	単 価	価 格
ハイテンボルト	J I S 規格第2種	3/4"Ø	kg	210円
"	"	7/8"Ø	"	200円
"	J I S 規格第3種	3/4"Ø	"	220円
"	"	7/8"Ø	"	210円
普通ボルト	半 仕 上		"	150円
"	全 仕 上		"	185円

備考 リベット材加工制作費は今年より16,000ton
とした

4. スタッドジベルの単価 (打接費を含む)

費 目	単 位	22 Ø	19 Ø
ジ ベ ル	本	50円00	40円00
フ ェ ル ル	"	7, 70	6, 20
熔 接 費	"	72. 30	63. 80
計	"	130, 00	110, 00

5. ショットブラスト及プライマーの単価

ショットブラスト m² 95円
プライマー m² 140円
補修塗 m² 45円

計280円/m²

6. サンドブラスト及ウォッシュプライマー

サンドブラスト m² 330円
ウォッシュプライマー m² 125円

計455円/m²

7. ジンクリッチプライマー

ジンクリッチプライマー m² 160円
補 修 塗 m² 75円

計235円/m²

8. 錆 落 し

二種ケレン 80/m²

9. リベット製作費

①/t 15,000円

10. 型式別架設費実績

トラス ①/t 55,000円

ガーダー ①/t 38,000円

50t未満 ①/t 42,000円

11. 現場塗装工
いて

高工 製作工の賃金実績につ

	最高	最低	平均
現場塗装工	2,700円	1,600円	2,200円
高 工	3,000円	1,800円	2,400円
製 作 工	3,000円	2,200円	2,500円

労 務 委 員 会

☆41年 9月12日

労働省労災補償担当官を招き労災保険並に補償
関係の法改正等について懇談会開催

☆41年10月 5日

1. 東西合同労務幹事会に関する打合せについて
2. 41年度年末一時金について
3. その他

☆41年10月 7日 8日

東西合同労務幹事会（関西）41年度年末一時金
について

☆41年10月17日

1. 低水素系溶接棒使用の場合の安全衛生対策につ
いて
2. その他

☆41年11月14日 委員会

1. 41年度年末一時金について
2. その他

☆41年12月12日

1. 41年度年末一時金支給状況について
2. 41年度鉄骨橋梁業種給与状況調査について
3. その他

☆41年12月20日

1. 他業種の一時金等の対組合交渉の方法等につい
て、車輛、造船業界の話を聞いた
2. その他

☆42年 1月10日

1. 42年度の春闘について
2. その他

賞 与 支 給 状 況 一 覧 表

会 社 名	4 0 年				4 1 年			
	夏 期		年 末		夏 期		年 末	
	要 求	妥 結	要 求	妥 結	要 求	妥 結	要 求	妥 結
高 田 機 工	128,000	96,897	120,000	101,600	120,000	101,677	118,850	103,596
松 尾 橋 梁	111,000	100,500	114,000	105,000	116,600	106,000	119,000	+4,095
駒 井 鉄 工	110,000	100,000	110,000	103,000	105,000	104,000	108,000	110,000
春 本 鉄 工	108,000	102,000	105,000	101,000	115,000	102,500	110,000	105,000
片 山 鉄 工	108,000	84,000	102,000	90,500	102,000	90,500	105,000	104,000
日 本 橋 梁	120,000	115,500	125,000	117,000	125,000	117,000	128,000	98,000
滝 上 工 業	85,000	79,000	105,000	92,500	90,000	82,000	105,000	120,000
桜 田 機 械	92,000	86,000	95,000	89,000	100,000	91,700	105,000	94,500
宮 地 鉄 工	107,000	103,000	110,000	107,000	115,000	108,000	110,000	100,000
横 河 橋 梁	113,000	107,000	107,000	105,000	115,000	108,000	115,000	111,000
東 京 鉄 骨 橋 梁	113,000	107,000	107,000	105,000	103,000	103,000	113,000	108,500
ト ビ ー 工 業	111,000	100,000	113,000	107,000	103,000	103,000	113,000	108,500
日 本 鉄 塔 工 業	70,000	53,500	70,000	47,000	113,000	106,500	114,000	108,000
駒 井 (東 京)					70,000	52,500	75,000	60,200
					70,000	60,000	100,000	75,000
					95,000	57,000	(69,000)	69,000
平 均	12社	"	"	"	14社	"	"	"
	105,250	93,950	106,333	97,133	102,786	91,598	106,418	97,921

技術委員会

☆10月5日 架設工事分科会開催
協会会議室 10時30分より

☆12月13日 設計分科会開催
協会会議室 13時より

☆11月22日 幹事会開催
協会会議室 3時より
鉄骨橋梁年鑑編纂について

資材委員会

☆41年10月7日
1. 厚中板（一般材）寸法エキストラ等の改訂（案）
についての検討
2. その他

☆42年1月12日
1. 厚中板（一般材）寸法エキストラ等の改訂に関
するこれまでの経過説明を行った
2. 鋼材クラブに於ける鋼材入手あっせんについて
3. 鋼材入手状況調査について
4. その他

☆42年1月19日
1. 鋼材入手状況について
専務理事より関西支部に於ける鋼材入手難（条
鋼類）対し通産省に陳情の要請があった旨報告
2. 鋼材入手難に対し通産省に陳情する件について
3. その他

☆42年1月20日
鋼材入手難に対する陳情書作成について

☆42年1月22日～23日
2日に渡り通産省、担当局、部、課長に面会陳
情書提出

☆42年2月4日
1. 通産省に対する陳情に関する報告
2. 鋼材あっせん所に於けるあっせん状況について
報告
3. その他

☆42年2月21日
1. 最近の鋼材入手難に関する諸問題について
2. その他

☆ 他に日機連と連絡を密にし鋼材入手難について、
鋼材クラブ側に入手希望報告書を提出緊急出荷に
件うあっせん要望等の働きかけを行った

運営委員会

☆10月3日
1. 工事施行管理制度海外調査団に対し（高速道路
調査会）調査依頼について

☆11月25日
1. 日本道路公団よりの通達事項について（現場説
明について）
2. 新年互礼会の件
1月6日 16時 鉄骨橋梁会館に決定

☆12月9日
1. 資本取引の自由化について
2. 横断歩道橋陳情について

輸送委員会

☆41年11月18日
1. 鋼道路橋原価計算表（41年度版）に掲載の輸送
費実例（貨車輸送の場合）について検討
2. その他

☆41年12月6日
1. 鋼道路橋原価計算表（41年度版）に掲載の輸送
費実例（自動車輸送の場合）について検討
2. その他

☆42年1月21日
1. 長物貨車の製作についてのアンケート調査の件
について
2. 鋼道路橋原価計算表の輸送費実例の校正
3. その他

☆ 都内における年末の交通規制に関する資料
会員に発送 41年11月25日

本州・四国連絡架橋調査委員会

☆10月4日 第4回幹事会開催

於 協会会議室 15時より
経過報告について

☆10月6日 第3回架橋工事分会

於 鉄骨橋梁会館 10時30分より

1. ストランド架設について
2. 多径間吊橋のA型タワーについて

☆10月17日 製作分会第4回関東班打合せ

於 協会会議室 13時30分より

☆10月20日 架設工事分会第6回関東班打合せ

於 協会会議室 9時30分より

1. ストランド架設について

☆10月21日 第3回製作分会開催

於 川崎重工業保健会館 10時30分より

1. 多径間吊橋のA型タワー製作について
2. 限界ゲージについて

☆10月22日 製作分会

於 東名道浜名湖橋下部ケーソンの見学実施

×10月27日 架設工事分会第7回関東班打合せ

於 協会会議室

1. ストランド架設について

☆11月8日 架設工事分会第8回関東班打合せ

於 協会会議室

1. ストランド架設について

☆11月10日 第4回架設工事分会

於 日立造船会館 10時30分より

1. ストランド架設について
2. 多径間吊橋のA型タワーについて

☆11月19日

製作・架設工事分会合同総会及び基礎構造物（ケーソン）現地実施見学の開催

☆12月5日 架設工事分会第9・10回関東班打合せ

於 今井旅館

1. ストランド架設について

☆12月16日 架設工事分会第11回関東班打合せ

於 協会会議室

1. ストランド架設について

☆12月20日 第6回架設工事分会開催

於 鉄骨橋梁会館

1. ストランド架設について
2. 多径間吊橋のA型タワーについて

☆1月13日 本州四国連絡道路調事務所と今迄の調査

研究に対する評価についての打合せ

於 協会会議室 14時より

☆1月20日 第7回架設工事分会開催

於 鉄骨橋会館 10時30分より

1. 評価表作成に対する打合せ

☆1月20日 第4回製作分会開催

於 滝上工業名古屋工場会議室 10時より

1. 評価表作成に対する打合せ

☆1月26日 第5回幹事会開催

於 鉄骨橋梁会館 13時より

1. 評価表作成に対する打合せ

☆1月27日 架設工事分会第12回関東班打合せ

於 協会会議室 9時30分

1. 評価表作成に対する打合せ



葡萄酒をたづねて

本州四国連絡架橋調査委員長 鎌 田 正 義

※吊橋の国際シンポジウム見学旅行から※

昨年11月にリスボンで開催された吊橋の国際シンポジウムには日本からも大勢参加され、会議の様子は各種の機会を通じてあつたことと思れるので、会議が済んでから行われた見学旅行からとりとめもないことを書き連ねて責を果したいと思います。と申すのもこの見学旅行には日本からの参加者が、会議の参加者に比較して少なかつたので、葡萄酒の場ポルトの匂いを嗅いだことだけでも報告する必要があるかも知れません。遙々と遠いリスボンへ日本から訪れ約5分間の英語スピーチをすることになり、予習、予習と時計にとらめつこをしながらホテルの一室で隣部屋のことを気にしつつ、大昔にやらされた中学の英語読本読みよろしく原稿を読上げる練習を重ねて、やつとなんとか形をつけ、論文発表が終了した小生にとっては、本当に肩の荷がとれた感じで、未知の土地ポルトの魅力は心を揺するものがありました。

リスボンから飛行機で約2時間後にはポルトの空港に到着します。ポルトの町はポルトガルではリスボンに次ぐ第2の都会でポルトガルという国名もポルトの名前から由来したといわれています。町の家並もポルトガル独特の褐色の屋根瓦の下に黄色を帯びた白色の

壁があるという風景が続いております。リスボンでは丁度よかつた秋の気候もこゝでは少し膚寒くレイノコートの襟を立てて歩かねばなりません。

バスによる見学旅行ですからドロ河に架かるスパン270mのコンクリート橋 Arabida 橋を見たり、名のある教会に御詣りしましたが、何んといつても葡萄酒作りの本場に來たのですから酒醸場の見学が目標となります。

Villa Nova De Gaia にある。Real Companhia Vinicola と呼ばれる酒醸所の狭い門を我々を乗せたバスが入つたのは昼すこし前の頃で、そこはもうそこはかとなく酒の匂いが漂います。バスが停つたあたりには葡萄酒のビンやトックリ風の素焼ビンがうず高く積まれ、昼飯をとりきた職人や、女工さんの群に取囲まれました。

サンプルの葡萄酒ビンの収納されている倉庫に案内され説明がありましたが、こゝにはポートワインをグラスに注ぐ面白い装置が置いてありました。元来ポートワインは醱酵が全部終わらないうちに濃いブランディを加えて、醱酵を停めてしまうために酒のうちにいろいろのかすというかもやもや（おり）が出来ます。樽の中に寝かせる間に次第にこれは沈殿してビン詰には

おりはあまりない相でありますが用心のために酒壺をハンドルのついた架台に乗せハンドルの回転につれて除々に壺を傾斜させ静かにポートワインをコップに注ぐという仕掛けです。おりがコップの中にまぎれこまない用心としてのんびりガラガラとハンドルを昔の人は廻したものでしょう。収納庫の内部には、古いものは1700年代の壺がすまみれになつたまゝ何本も年代順に棚の上に立ててありました。

このすずはまるで蜂の巣よろしく古いものになると大きな塊となつて壺の口の辺りについているのには驚きました。見学中誰かが誤つて足を滑らせ棚に手を掛けたとたん、一本の壺を床に落して割つてしまつたのですが、狭い収納所の入口に甘い酒の匂いが漂い、酒好きの人は鼻を鳴らしたことでしょう。案内の順序に従い、酒倉の中の何千とある樽を眺めた後、昼飯となりました。食前のシャンペン、魚には白葡萄酒、肉には赤葡萄酒と型通りに注がれて最後にポートワインが出ました。

この醸造所のブランド名はジョルダンノと言うのだと紙に書いてくれました。アルコール分は40%もある強い酒です。コニャック風のカップに似た薄手の純白のワインカップに注がれた濃紅色のポートワインは、づしりとカップに寄りかゝつた様な重量感に溢れ、黒紫にも近い色彩の深味は、シャンペンの淡い透明な華麗さとは全く対照的です。口に含んでみると、あまりいろんな酒を飲んだことのない小生ののどにも、舌ざわりのよい甘い味、匂いが湧きでてくるようです。しかしこの甘さに惹かれてがぶ飲みをすると後が大変です。

というのもリスボンで一晩試しにポートワインを飲んでみましたが、まだ飯も食わない空腹時にいゝ気になつて飲み、後で大弱りした経験があるからです。アルコール分40度といえは大変強い酒ですが甘味でごまかされるのか、飲んだ感じではそう強く感じないのが曲者です。矢張り強い酒は、外国の流儀に従つてデザートが終ってからということになりましょう。勿論、辛口もあり、辛口と甘口とどちらがよいかと醸造所の人が尋ねていました。

この味もこの地に幾世代を経た伝統によつて受け継がれてきた技術、経験の賜でありましょう。日本でよく、見掛るポートワインの味とは全く異質のものであります。

こゝでラブンドされる葡萄は見学旅行の第2日目の行程となつたドロ河の北側に並ぶ斜面の葡萄畑から採取される葡萄に限ります。

ポルトガルでも本当のポートワインはこのドロ河の流域に沿つたある狭い範囲の葡萄畑で栽培された葡萄を原料とし、葡萄を圧搾し出来た葡萄酒を樽に入れてドロ河を降り、河口のオポルト港を経て Villa Nova De Gaia にある酒庫で熟成しポルト港から輸出されるものに限るといわれております。

この葡萄畑の作り方は日本式の棚作りでなく、一本一本棒立ちの株作りで、丁度背の低い桑畑の様な感です。河に沿う傾斜面は既に時期も過ぎて枯葉も混る葡萄の青葉が縦一面に並び、その処々には大きな岩がごろごろと転っております。圧搾場はそんな風景の中に小さく埋れた様に点在します。空はあくまで澄切ったコバルト色でさんさんと光る太陽を受ける岩は濡れた様に青葉の間にうずくまっていました。

翌日の旅行も終りになる頃、小高い丘にあるホテルの庭でフォークダンスを見物することになりました。

男の吹くフリートをアコーディオンを伴奏に Fado に合せて、男女の組が舞台となつた板張の床の上で踊ります。女は白いブラウスの上に御国ぶりの民俗衣裳をつけています。赤い素地に黄や緑のししゅう模様が踊る毎に変化があり、黒いスーツの男の踊子と対照的で踊る瞬間毎に色彩が揺れます。また首から吊した金のメダルも数多く踊るたびに触れ合つて微かな音を立てることでしょう。Fado を歌う合唱の娘さん達の澄んだ歌声、伴奏のフルート、アコーディオン、また足踏みならす靴音が入りまじり、輪舞の輪がヒラヒラと左右、上下と揺れ、リズムに乗って手を叩き足をならすフォークダンスが次第に高潮してきます。ダンスの群に飛入する人達も大勢となり、益々歌と踊りも高潮してきます。そこには会議で見られなかった大先生たちの童心に返つた顔が見られます。

歌も踊りも果しなく続けられ、拍手が絶間なく響いておりましたが、遂に終りました。音と色との躍動がビタリと止まると、放心したような目の先には丘を越えて遠くに青く光るリマ河が横一文字に流れていました。

こんなフォークダンスを見ていると、あるいは葡萄酒づくりの葡萄ふみから、歌や踊も産れてきたのではないかと想像されます。

フォークダンスの唄と踊りの好評から帰りのバスの車中でポルトガル側から、フォークソングを男女混声で上手に唄いだしました。

段々興が乗るにつれ各国のフォークソングの交換をやろうではないかという提案が起り、日本勢も負けじと土佐節、箱根の山、荒城の月等を御披露する破目になりました。バスの車中が大合唱で湧立つ頃、漸く帰路のポルト空港に到着しました。Muito Obrigado (Thank You), Adeus (Good bye) を繰返しながら誰彼の区別なく握手を繰返し別れをつげる風景がみられます。

会議における交歓もさることながら狭いバスの中で一日行を共にして、互に心と心の触れ合った友情は後まで消えることなく深く涵みこんで残ります。このような機会を得たことも、国際会議における有益な収獲であつたと感謝する次第です。

＝ 事務局 だ よ り ＝

横断歩道橋の陳情について

昨年11月末頃より、横断歩道橋に関し会員各位から価格工期その他について問題が極めて多いので、協会に於て関係官庁に陳情してほしいとの強い要望が起ってきたので、12月7日、市場調査幹事会を開きその対策を協議した結果、会員各位に対するアンケートによる実態調査を行うこととし、アンケート案を作製した。12月9日運営委員会を開き更にこの問題を検討した。

12月15日、会員全員を招集し上記アンケートを12月25日迄に提出して貰うこととした。1月10日、市場調査幹事会を開催し各社より提出のアンケートを取纏之に基き、道路局長宛の陳情書案を作製すると共に実績による実態調査一覧表を製作、更に1月17日理事会を開催し陳情書並実態調査一覧表の検討を行い、翌18日、会長、副会長、事務局長にて、道路局長、技監を訪れ陳情書を手交し善処方を要望した。同時に道路局企画課の担当官を始め実際の発注ヶ所である関東地建東京都にも同様の陳情と参考資料の提出を行った。更に関西地区に於ては、2月16日近畿地建、大阪府、大阪市にも同様の陳情を行った。一方協会より各地建及工事事務所、府県並大都市へ陳情書の写を送附し善処方を依頼した。尚3月には、新しい鋼道路橋原価計算表の説明会を全国主要地区（地建所在地）に於て行う計画があるので、その際にも横断歩道橋に対する陳情と説明を合せて行う予定である。尚、参考までに陳情書の要点を記せば次の通りである。

1. 工期が非常に短いことが各社の意見であり、下の通り希望しす。

イ 工期を図面承認後何日と指示して戴きたい。

ロ 50屯以下のものは図面承認後120日程度に御願いたい。

（注 上部工の大小に拘らず材料手配は2～3ヶ月を要し、製作建方で2ヶ月を見込む必要がある）

2. 夜間作業が必ず要求されるので此の単価を大幅に上げて欲しい。
3. 基礎工事は一式で内訳を示さない例が多いが、設計変更を容易にするため内訳を示して欲しい。積算落のあるときは、極力追加の処置をとって戴きたい。
4. 予定しない埋設物、その他形の伴わない出費も設計変更の対象にして欲しい。出来れば予算面で不

確定要素を見込んで戴きたい。

5. 基礎関係の調査は発注者側で完全を実施して欲しい。
6. 基礎工事の分離発注は出来ないかを検討願いたい。
7. 図面は確定したものを発注者側から示して欲しい。
8. 標準設計に入手困難の材料あり。対策を研究して戴きたい。

（特定メーカーのみロールしている大形形鋼等はロールチャンスが年1回位しかなく現実には入手困難である。

無理に入手を企ると無規格品で80,000～100,000円の市場価格が普通である。）

9. 新規に標準設計を作られると聞いているが、もっとも経済的な設計にする為にも、当協会に御相談願いたい。
10. 横断歩道橋実績では3.8%～47.1%採算割当て、その平均が20.8%となり実状にそぐわないので御検討戴きたい。

尚適正な利潤も御勘考願いたい。



＝ 行 事 報 告 ＝

☆10月

10月24日 日本機械輸出総合懇親会へ事務局長出席

10月25日 秋の建設関係叙勲者に対する建設業界11
団体共催の祝賀会についての打合せ会
於 全国建設業協会

☆11月

11月1日 第4回会員懇親ゴルフ大会

於 鷹之台カントリークラブ

※優勝 安武秀次 (佐世重工業)

※2位 菊盛啓雄 (トビー工業)

3位 佐渡 正 (栗本鉄工所)

※4位 坂田静雄 (呉造船所)

5位 額額八郎 (事務局)

※印はカップ取切戦出場資格取得者

11月14日 建設関係叙勲者合同祝賀会
於 パレスホテル 17時30分より
本協会関係としては
勲四等端宝章 遠藤考之氏
(東京鉄骨橋梁製作所相談役)

☆12月

12月5日 資本自由化問題に関する懇談会
於 建設省計画局建設振興課

12月5日 西村新建設大臣宅へ額額事務局長大臣就
任祝に参上

12月15日 打ち合せ会開催
於 鉄骨橋梁会館 14時より
横断歩道橋についての陳情の打ち合せ他

☆1月

1月5日 建設大臣に会長副会長事務局長新年の挨拶に参上

1月6日 新年名刺交換会開催
於 鉄骨橋梁会館 16時より
参加者田口会長以下110名

1月13日 横断歩道橋について、関東地方建設局等に陳情

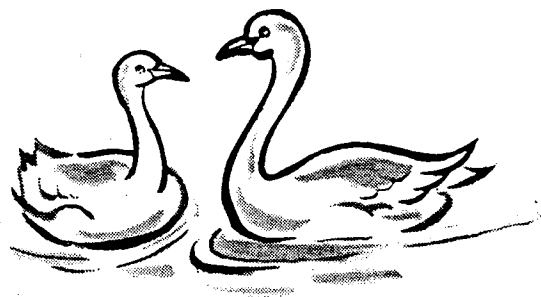
1月17日 阪神高速道路公団より架設についての問い合わせ事項があり、この説明会を開催
於 橋建協関西事務所 13時より

1月17日 資本自由化問題に関する打合せ会出席
於 建設省計画局建設振興課

1月23日 「鋼道路橋原価計算表」昭和41年度版について建設省に説明

1月27日 打ち合せ会開催 13時より
於 鉄骨橋梁会館
「建設省よりの伝達事項」の確認

1月18日 横断歩道橋について建設省道路局長に陳情



委員 会 名 簿

運 営 委 員 会

委員長 石 田 俊 夫 (石川島播磨重工業)
 委員 小 椋 博 之 (駒 井 鉄 工)
 委員 森 敏 夫 (三 菱 重 工)
 委員 伊 藤 英 太郎 (宮 地 鉄 工)
 委員 中 谷 林 之助 (横 河 橋 梁)

技 術 委 員 会

委員長 松 浦 作 造 (東 京 鉄 骨 橋 梁)
 幹 事 榎 淳 市 (石川島播磨重工業)
 幹 事 柴 谷 仁 人 (汽 車 製 造)
 幹 事 村 上 六 夫 (桜 田 機 械)
 幹 事 久 末 達 雄 (日 本 橋 梁)
 幹 事 上 野 誠 男 (日 本 鋼 管)
 幹 事 沢 口 俊 男 (日 立 造 船)
 幹 事 沢 口 正 司 (松 尾 橋 梁)
 幹 事 鎌 田 正 義 (三 菱 重 工)
 幹 事 小 池 修 二 (宮 地 鉄 工)
 幹 事 長 谷 川 鎧 一 (横 河 橋 梁)
 幹 事 池 田 一 肇 (横 河 工 事)

技 術 委 員 会 分 科 会

設 計 分 科 会

分会長 榎 淳 市 (石川島播磨重工業)
 中 谷 忠 男 (汽 車 製 造)
 村 上 六 夫 (桜 田 機 械)
 渡 辺 昭 一 (高 田 機 工)
 松 岡 亮 一 (東 京 鉄 骨 橋 梁)
 関 藤 昭 房 (日 本 鋼 管)
 田 沢 周 平 (日 立 造 船)
 雨 宮 敏 男 (松 尾 橋 梁)
 沖 守 明 (三 菱 重 工)
 菊 野 衛 (宮 地 鉄 工)
 長 谷 川 鎧 一 (横 河 橋 梁)

製 作 分 科 会

分会長 久 末 達 雄 (日 本 橋 梁)
 金 谷 和 久 (川 崎 重 工)
 森 井 春 生 (汽 車 製 造)
 植 田 幸 男 (吳 造 船)
 宮 田 実 夫 (滝 上 工 業)
 田 中 良 茂 (東 京 鉄 骨 橋 梁)
 森 永 慶 一 (日 本 鋼 管)
 三 田 利 武 (三 菱 重 工)
 金 山 哲 三 (宮 地 鉄 工)
 明 石 重 雄 (横 河 橋 梁)

架 設 工 事 分 科 会

分会長 池 田 肇 (横 河 工 事)
 菅 謙 一 (石川島播磨重工業)
 小 羽 島 正 義 (浦 賀 重 工 業)

川 田 忠 樹 (川 田 工 業)
 田 中 俊 二 (栗 本 鉄 工)
 今 村 能 久 (駒 井 鉄 工)
 加 藤 真 三 (日 立 造 船)
 江 田 暢 夫 (松 尾 橋 梁)
 小 塚 義 夫 (宮 地 鉄 工)
 奥 田 三 郎 (宮 地 建 設 工 業)
 日 戸 順 三 郎 (横 河 工 事)

市 場 調 査 委 員 会

委員長 御 園 一 雄 (横 河 橋 梁)
 幹 事 神 保 紀 (石川島播磨重工業)
 幹 事 鈴 木 久 門 (川 田 工 業)
 幹 事 酒 井 克 美 (駒 井 鉄 工)
 幹 事 伊 藤 健 二 (桜 田 機 械)
 幹 事 佐 久 間 正 生 (高 田 機 工)
 幹 事 末 松 幹 郎 (東 京 鉄 骨 橋 梁)
 幹 事 西 村 英 男 (日 本 橋 梁)
 幹 事 吉 国 祐 正 (日 立 造 船)
 幹 事 黒 瀬 庄 慶 (松 尾 橋 梁)
 幹 事 中 村 正 (宮 地 鉄 工)

労 務 委 員 会

委員長 田 中 敏 (宮 地 鉄 工)
 幹 事 前 沢 真 夫 (汽 車 製 造)
 幹 事 滝 沢 勝 衛 (駒 井 鉄 工)
 幹 事 佐 々 木 定 雄 (桜 田 機 械)
 幹 事 山 川 一 郎 (東 京 鉄 骨 橋 梁)
 幹 事 中 村 正 雄 (松 尾 橋 梁)
 幹 事 小 西 正 一 (横 河 橋 梁)

輸 送 委 員 会

委員長 北 川 孝 三 (宮 地 鉄 工)
 幹 事 稲 垣 米 之助 (石川島播磨重工業)
 幹 事 政 岡 泰 (汽 車 製 造)
 幹 事 山 本 孝 治 (東 京 鉄 骨 橋 梁)
 幹 事 井 家 吉 博 (日 立 造 船)
 幹 事 三 谷 博 勉 (松 尾 橋 梁)
 幹 事 田 口 誠 一 (三 菱 重 工)
 幹 事 杉 山 誠 一 (横 河 橋 梁)

資 材 委 員 会

委員長 岩 田 守 (宮 地 鉄 工)
 幹 事 多 田 稔 (駒 井 鉄 工)
 幹 事 佐 久 間 正 生 (高 田 機 工)
 幹 事 平 野 実 (滝 上 工 業)
 幹 事 細 井 慎 一 (東 京 鉄 骨 橋 梁)
 幹 事 西 村 英 男 (日 本 橋 梁)
 幹 事 西 廻 島 哲 郎 (松 尾 橋 梁)
 幹 事 細 谷 勝 三 (三 菱 重 工)
 幹 事 武 田 重 義 (横 河 橋 梁)

本州四国連絡架橋調査委員会

〔本 委 員 会〕

委員長	鎌田正義	(三菱重工業)
副委員長	松浦作造	(東京鉄骨橋梁)
	遠藤又吾	(石川島播磨重工業)
	南保賀	(浦賀重工業)
	大宮克己	(川崎重工業)
	吉田四夫	(川田工業)
	森正英	(汽車製造)
	坂田静雄	(吳造船所)
	稲垣茂樹	(駒井鉄工所)
	小林武雄	(桜田機械工業)
	三浦文次郎	(高田機工)
	滝上賢一	(滝上工業)
	久末達雄	(日本橋梁)
	上野誠	(日本鋼管)
	白崎直彦	(日立造船)
	舘正晴司	(松尾橋梁)
	近藤鍵武	(宮地鉄工所)
	小川新市	(宮地建設工業)
	住谷秀夫	(横河橋梁)
	田中五郎	(横河工事)

〔幹 事 会〕

幹事長	舘正晴司	(松尾橋梁)
幹事	稲垣淳市	(石川島播磨重工業)
幹事	小池修二	(宮地鉄工所)
幹事	久末達雄	(日本橋梁)
幹事	上野誠	(日本鋼管)
幹事	住谷秀夫	(横河橋梁)
幹事	池田肇	(横河工事)

〔製作分会専門委員〕

分会長	久末達雄	(日本橋梁)
副分会長	明石重雄	(横河橋梁)
委員	金谷和久	(川崎重工業)
委員	森井春生	(汽車製造)
委員	植田幸雄	(吳造船所)
委員	渡辺昭	(高田機工)
委員	宮田実	(滝上工業)

委員	田中茂	(東京鉄骨橋梁)
委員	工藤哲	(日本橋梁)
委員	森脇良一	(日本橋梁)
委員	永尾慶一郎	(日本鋼管)
委員	三田村利武	(三菱重工業)
委員	金山哲三	(宮地鉄工所)

〔架設工事分会専門委員〕

分会長	池田肇	(横河工事)
副分会長	加藤真三	(日立造船)
委員	菅謙一	(石川島播磨重工業)
委員	小羽島正義	(浦賀重工業)
委員	佐伯礼行	(片山鉄工所)
委員	川田忠樹	(川田工業)
委員	田中俊二	(栗本鉄工所)
委員	今村能久	(駒井鉄工所)
委員	村上六夫	(桜田機械工業)
委員	大崎忠男	(東鋼橋梁)
委員	横森賢	(トビー工業)
委員	雨宮敏男	(松尾橋梁)
委員	小塚義夫	(宮地鉄工所)
委員	奥田三郎	(宮地建設工業)
委員	日戸順三郎	(横河工事)

会報編集委員会

委員長	石田俊夫	(石川島播磨重工業)
委員	松浦作造	(東京鉄骨橋梁)
委員	鎌田正義	(三菱重工業)
委員	酒井克美	(駒井鉄工所)
委員	御園一雄	(横河橋梁)
委員	中村正	(宮地鉄工所)
委員	田中敏	(宮地鉄工所)
委員	廻島哲郎	(松尾橋梁)
委員	北川孝三	(宮地鉄工所)
委員	額額八郎	(事務局)

役 員 名 簿

会 長	石川島播磨重工業株式会社	取締役社長	田 口 連 三
副 会 長	株式会社 横河橋梁製作所	専務取締役	加 藤 染 雄
副 会 長	株式会社 宮 地 鉄 工 所	専務取締役	富 士 栄 一
理 事	三菱重工業株式会社	専務取締役	古 賀 繁 一
理 事	松尾橋梁株式会社	常務取締役	高 田 稔
理 事	高田機工株式会社	取締役副社長	三 浦 文 次 郎
理 事	日本橋梁株式会社	取締役社長	光 永 一 三 男
理 事	株式会社 駒井鉄工所	取締役副社長	稲 垣 茂 樹
監 事	汽車製造株式会社	取締役社長	笹 村 越 郎
監 事	川田工業株式会社	取締役社長	川 田 忠 雄

会 員 名 簿

石川島造船化工機株式会社	取締役社長	下 村 禮 輔
本 社・工 場 東京都江東区南砂町4-625	電話 東京 (644) 2131・9411 (代表)	
石川島播磨重工業株式会社	代表取締役社長	田 口 連 三
本 社 東京都千代田区大手町2-4	電話 東京 (270) 9 1 1 1	
中央梁橋株式会社	代表取締役	菊 地 康 次
本 社 愛知県知多郡上野町浅山新田地先	電話 上野町 (63) 1 2 5 5 - 7	
浦賀重工業株式会社	代表取締役社長	大 塚 振 武
本 社 東京都千代田区大手町2-4 (新大手町ビル7階)	電話 東京 (211) 1 3 6 1	
大島工業株式会社	取締役社長	大 島 竹 一
本 社 横浜市南区井土ヶ谷中町136	電話 横浜 (73) 0832 (代) ~{9	
株式会社 片 山 鉄 工 所	代表取締役	島 田 孝 治
本 社・工 場 大阪市大正区南恩加島町1	電話 0 6 (552) 1231 (大代表)	
片山鉄骨橋梁株式会社	代表取締役社長	片 山 薫
本 社 東京都千代田区神田司町2-7 (福緑ビル6階)	電話 東京 (293) 4461 (代表)	

川崎重工業株式会社 本社・工場 神戸市生田区東川崎町2-14	取締役社長 砂野 仁 電話 神戸 (67) 5001 (大代表)
川田工業株式会社 本社・工場 富山県福野町 4610	取締役社長 川田 忠雄 電話 福野 2101 (代表)
汽車製造株式会社 本社 東京都千代田区大手町2-8 (日本ビルディング)	取締役社長 笹村 越郎 電話 (270) 6551 (大代表)
株式会社 栗本鉄工所 本社 大阪市東区唐物町4-26 (太陽生命ビル内)	取締役社長 井戸崎 好次 電話 (251) 3431 (大代表)
株式会社 呉造船所 本社 東京都中央区八重洲2丁目3番地(中川ビル)	代表取締役社長 水谷 卯吉 電話 東京 (272) 6711 (大代表)
株式会社 駒井鉄工所 本社・港工場 大阪市港区北福崎西之町8	取締役社長 駒井 英二 電話 大阪 (572) 1112~8 (代表)
株式会社 酒井鉄工所 本社・工場 大阪市西成区津守町西6丁目21番地	取締役社長 酒井 芳申 電話 大阪 (661) 1331 (代表)
桜田機械工業株式会社 本社 東京都中央区銀座1-3	取締役社長 桜田 巖 電話 東京 (561) 2166 (代表)
佐世保重工業株式会社 本社 東京都千代田区大手町2の4	代表取締役社長 大木 直正 電話 東京 (211) 3631 (代表)
高田機工株式会社 本社・工場 大阪市西成区津守町西6-1	代表取締役社長 木崎 輝雄 電話 (661) 5831~5・1271~5
滝上工業株式会社 本社 東京都中央区湊町1-3	代表取締役 滝上 清次 電話 (551) 2254・2264・0019
株式会社 東京鉄骨橋梁製作所 本社・工場 東京都港区芝浦4-15-1	代表取締役 山手 研吾 電話 東京 (451) 1141~9・3958・8201~2
東網橋梁株式会社 本社 東京都中央区日本橋茅場町1-4	取締役社長 鈴木 丹 電話 東京 (669) 2361 (代表)
トビー工業株式会社 本社 東京都千代田区四番町5番の9 (東亜ビル)	取締役社長 藤川 一秋 電話 東京 (265) 0111 (代表)
橋崎造船株式会社 本社・工場 北海道室蘭市築地町135	取締役社長 水田 正 電話 室蘭 (2) 1191 (代表)
日本橋梁式株会社 本社・工場 大阪市大淀区長柄浜通1-1	取締役社長 光 永一三男 電話 (358) 1271 (代表)

日本鋼管株式会社 本社 東京都千代田区大手町1-2	代表取締役社長 赤坂 武 電話 (212) 7111 (大代表)
日本車輛製造株式会社 本社・名古屋支社 名古屋市熱田区三本松町1-1	取締役社長 天野 春一 電話 (861) 3311
日本鉄塔工業株式会社 本社 東京都中央区銀座東4の4	取締役社長 有田 勇次郎 電話 東京 (542) 3311 (代表)
函館ドック株式会社 本社 東京都中央区日本橋通2-3	取締役社長 合田 秀雄 電話 (272) 1731 (代表)
株式会社春本鉄工所 本社・工場 大阪市大正区南恩加島町1-151	取締役社長 春本 利雄 電話 大阪 (552) 1461 (代表)
日立造船株式会社 本社 大阪市西区江戸堀1-47	取締役社長 永田 敬生 電話 大阪 (443) 8051 (大代表)
富士車輛株式会社 本社・工場 大阪府南河内郡狭山町大字池尻383	取締役社長 藤本 豊三 電話 登美丘 (7) 7 6 1
舞鶴重工業株式会社 本社 東京都千代田区竹平町1 (パレスサイドビル)	代表取締役 赤松 茂 電話 東京 (231) 1681 (代表)
松尾橋梁株式会社 本社・工場 大阪市大正区鶴町3-110	取締役社長 北 栄 弥三 松 電話 大阪 (552) 1551 (大代表)
三井造船株式会社 本社 東京都中央区日本橋室町2-1-1	代表取締役社長 田 中 繁 松 電話 東京 (279) 0511 (大代表)
三菱重工業株式会社 本社 東京都千代田区丸の内2-10	取締役社長 河 野 文 彦 電話 (212) 3111
宮地建設工業株式会社 本社 東京都文京区本駒込6丁目13番10号	取締役社長 宮 地 武 夫 電話 東京 (946) 5171~7
株式会社宮地鉄工所 本社・工場 東京都江東区南砂町9-2470	取締役社長 宮 地 武 夫 電話 (645) 1141 (代表)
株式会社横河橋梁製作所 本社 東京都港区芝浦4-4-44号	取締役社長 横 河 時 介 電話 東京 (453) 4111 (大代表)
横河工事株式会社 本社 東京都千代田区平河2-7	取締役社長 横 河 時 介 電話 東京 (263) 0431 (代表)



—あ　と　が　き—

第3号を発行するに当り会員各位の御投稿を期待していましたがあまり集まらず内容的には協会活動の行事報告（会報の主目的ではありますが）等が主体となつてしまいました。第4号（本年5月末発行の予定）は会員各位の御意見、随筆等、その他を載せたいと思いますので振つて御投稿下さる様御願ひ致します。